



楽農学校OB会だより

第51号 2025年8月号



農業を始め、有機農業を知り人生が変わった

生きがい農業コース 19期 大上富士^{あつし} (80才)

田舎生活の始まりは、70才で退職後、2013年から野菜づくりの基礎を学びたいと思ったが、猪名川町内には学べる環境は無く、諦め懸けていた頃、神戸西区に有る兵庫楽農生活センターを知り、そこで野菜・果樹・花の栽培方法を学ぶ機会を得た。

学び初めて2年が過ぎた2015年、保田先生の有機農業塾を知り学び始める。農薬不使用の野菜づくりで有機農業作物の安全・安心の食を知ることになる。そして、安心な土壌と食べ物を楽しく育てる「保田ぼかしの土づくりの力」つまり「微生物の力」を学び、知るほどに肥料と土壌と作物と食に安堵を感じています。



最も安心を感じる根源は、昔体験した「泥沼を浄化した溶液の基は有機資材で作られた微生物の力」を上回る有機資材配合の肥料（保田ぼかし）の奥深さを学ぶ機会が増えている。ぶどう・ブルーベリー栽培で有機資材に加えて「野草と緑肥の力」を活用の効果を試している。

有機農業の最初は半信半疑からスタートしましたが、進めていくと農薬の責務として、人間、動物をはじめ果樹、植物、生物、微生物が生息する土壌など、全ての生物に対して有益となる要因は薄れ、生鮮で食する食文化に対して悩ましい不安が募っていった。これを改善させるには「農薬不使用の有機農業」だった。

その行き先は、自然の恵みの恩恵をどうすれば受けられるか、露地栽培の農作物栽培には多才な知恵が必要である。見栄えよりも安全・安心」が食の究極では無いかと思うようになりました。

さらに雑草と扱われる野草の活用、等、地上の植物は、生物の育成に有益な食べ物でもある。そして味噌・醤油・酒、等、微生物の活用が大昔からの先人の知恵で現在にも受け継がれている。

いずれも農薬・化学肥料もない時代を生き抜いて、日本の食生活を支え続けて来られた先人の知恵、「鎖国時代の日本人口3千万人の食を蒔ってきた農業の歴史は凄い」農薬なし、農機具なし、ほぼ人力の時代で。農地を開拓して、現在がある。清い空気・水・農地・森林の恵まれた環境の有難さを現世の人達がもっと認識せねばならないのではないかと勝手に願っている。



農業を初めて5年が過ぎた頃、養蜂家と知り合い、一昔前に名村会長と眺めた開墾田は蜜蜂の巣箱が並んでおり、周辺には柚の幼木に囲まれた住処となっている。

桜の咲く春先から初秋まで猪名川町内4カ所（桜→柚→蓮花→栗→山椒）で蜜蜂が採蜜を、我が家の庭で採蜜作業を行っており、「試し舐め」が楽しみである。

農薬に敏感な蜜蜂が地区毎に2km周辺の生活環境の食の安全・安心のパトロールをしてくださっている。我が家の野菜づくりの現状は、有機農業塾とほぼ同じベースで取り組んでいる。

果樹栽培では楽農学校で知り得たぶどう栽培の仲間に感謝している。生食ぶどう以外にワイン用ぶどう栽培を手がけている。自作のワインを縁側で仲間と飲めるようになるのはいつになることか？楽しみにしている。ブルーベリーに関しては、露地栽培で7年目となるが有機資材で元気に育っており。少しだが、道の駅への出荷をしている。その他の果樹、柚、栗、みかん、ビワ、アケビ、プラムにも農薬不使用の有機栽培の望みが見えてきた。農作物栽培の共通のテーマは、防獣対策である。特にアライグマ対策に苦戦している。

学校課のニューフェイス紹介

水田 泰徳（みずた やすのり） 嘱託職員

加東市在住、事務と半農半Xコースの果樹を担当しています。県立農林水産技術総合センターで、淡路から加西にかけて、ずっと果樹に囲まれた生活をしてきました。いろんな果樹を作ってきましたが、作るのも、食べるのも、一番好きなのは桃です。推しは、（甲子園の傍で生まれたので）タイガース、サザン、ZARDです。果樹は、野菜と比べて図体が大きくて、永年性で、敷居が高いと感じられていると思いますが、お好きな果実があるのなら、一度、ポット栽培から、挑戦してみませんか！



橋本 貴一郎（はしもと きいちろう） 技師

就農コースに関する業務を担当しています。農学職として入庁4年目で、姫路農業改良普及センターから異動で参りました。学生時代は吹奏楽部でサックスを吹いていましたが、卒業後は遠ざかってしまっています。また最近万博にはまっており、通期パスを購入してセンターの定休日に通っています。

これまでとは全く違った仕事となりまだ慣れないこともありますが、皆さんのお役にたてるように頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



笹倉 勝彦（ささくら かつひこ） 指導員

40年以上にわたり、営農相談や販売事業など業務に携わってきました。振り返ると、販売先の変化により、農家の営農形態も大きく様変わりしたことを実感しています。

特に近年は、量販店の影響力が高まり、市場販売から直販への流れが加速しています。

このような変化の中で求められるのは、モノを作る（育てる）技術はもちろん、販売力を高める工夫です。「どこで売るか」に加えて「どう売るか」「誰に届けるか」を考える力が、ますます重要になってきていると日々感じています。



就農コース卒業生メロン農家（水田農園） 農場見学&即売会

7月20日（日）メロン農場見学&即売会を実施しました。

メロンの収穫時期に合わせたため、暑い中での開催となりましたが21名のご参加でした。

6台の車に乗り合わせ（車のご協力ありがとうございました）神戸市西区押部谷町細田地区にある水田農園へ約15分、昨年就農コースを修了された水田貴士さんの農園です。

用意して下さったテント2張りの日陰で農園やメロン栽培の説明があり、熱心な質問も飛び交いました。

現在ビニールハウスが3棟（メロン1棟・パプリカ1棟・秋メロン準備中の太陽熱消毒中1棟）で土壌調査し長野県より有機肥料を取り寄せて土作りされていました。



さてメロン栽培です。

蜜蜂で受粉し、夏は1苗孫ツルに2個メロン、秋は1苗子ツルに1個メロンだけを残してあとは摘果します。

生きがい圃場で気が付けば大小スイカができてしまったとは大違いです。

メロンは皮より果肉の成長が早いため、果肉の成長に皮が追いつかず表面がひび割れて網目模様の元になります。

そのため水やりのタイミング、量が大変難しく多すぎると割れて痛んでしまうそうです。設備の苦労話しでは楽農センターは設備が良過ぎた、恵まれていたとの事でしたが、昨年就農コース修了直前に水田さん担当のハウスにお邪魔した時より見事なメロンで

した。

就農にあたりメロンを選ばれた理由は「子供がすごい喜んでくれて、おいしかったあ〜！」と言ってくれて、これでメロンを選びました。

将来は有機JASを取得したい、まわりに有機の親方や仲間がいるのが心強く、大きな夢を語り合っています。



お待ちかねメロン即売会です。

並べられた細かな編み目の青肉・赤肉のメロン達。

当日追加も気温40度のハウスから収穫、採れたてを購入できました。

ちなみに秋メロンは更に糖度が上がるそうです

準備しているハウスに2〜3日中に種を落とし、収穫は11月中旬くらいとの事です。

昼食はお馴染みファイブ・カントリー・カフェへ

芦田農園さんの野菜山盛りサラダ、ピザはきのこ館の椎茸とマルゲリータのハーフ&ハーフ、ドリンクに舌鼓を打ちました。

夏休みに入り家族連れ客で賑やかなお店の一角で楽農話の花が咲きました。



写真：木坂伸子・福原史生 文：木坂伸子

皆さんに質問です。

設問1 「この地球を支配しているのは誰ですか？」

そんなん、人間に決まってるやろ！と思ったあなた！ とんでもない、全知全能で我々を支配しているお方がおられるのです。

生命活動を維持して行くには、食物を摂取し、消化吸收が不可欠です。

宇宙食の研究が進んでいますが、人間は食物を作り出すことはできないのです。



設問2 「食物を作り出す能力を持つ生命体とは？」

植物様です。光合成によって炭水化物を作り、そこからさらにたんぱく質を合成して行く能力を持っているのはこの地球上で植物以外はないのです。

設問3 「では、光合成って何？」

小学校5年の理科で学習しますが、高校生の生物レベルで見て行きましょう！

光合成とは、葉の気孔から二酸化炭素を取り込み、根から吸われた水が導管を通って葉にある葉緑素（クロロフィル）に送られ、太陽熱エネルギーを使って炭水化物を合成することを言います。



CH_2O :炭素と水の合成物ですから炭水化物です。

この CH_2O が1時間に1個作られたとしたら、6時間経てば



この $\text{C}_6\text{H}_{12}\text{O}_6$ は、ブドウ糖と呼ばれるものです。

さらに、この $\text{C}_6\text{H}_{12}\text{O}_6$ が4,000~5,000分子結合することでセルロースが合成されます。

セルロースは、細胞壁及び植物繊維の主成分で、セルロースが量産されるような誘導栽培することが病害虫に強い作物を育てることになります。

設問4 「草食動物 牛や馬は、なぜ藁だけ食べて生きていけるのか？」

藁は、ブドウ糖が幾つも結合した細胞壁と植物繊維で出来ているからです。

セルロースからブドウ糖を取り出すことができるのが草食動物なのです。

この地球上で唯一ブドウ糖を生成する能力を持つ植物が生命体の頂点にいる所以です。

植物（独立栄養生物）→草食動物（従属栄養生物）→肉食動物（従属栄養生物）



ピーマン畑の右端にあるのは、
拍動自動灌水装置です



拍動自動灌水装置：太陽光パネルを
電源に晴れた日だけ、指定した分量
だけ自動的に灌水されます。



五島農園産野菜には、
このシールが添付されています。
店頭で見つけたら買って下さいね！

総会開催の見送り

昨年に続き今年も「総会」の開催を見送らせていただきます。

つきまして、別紙お届けしました「総会資料」をもちまして総会における報告とさせていただきます。

ご了承くださいますようお願いいたします。

ご意見やご提案等ございましたら、rakunouob@rakunouob.sakura.ne.jpまでお知らせください。



秋の行事案内

施設見学・農場見学

日にち：10月26日（日）

訪問先：JA 育苗センター・五島農園

※上記行事の案内明細と参加申し込みは別添の案内方法でお願いします。

秋の感謝祭

日時：11月9日（日） 10：00～

★出店用食材作り 日時：11月8日（土） 13：00～

★食材準備・販売活動 日時：11月9日（日） 8：30～

※上記行事のご協力・ご参加は別添の申込用紙でお願いします。



諸般の事情により、変更・中止などの場合があります。ご了承ください。

食材準備の調理室はそばの調理に使用されてます。アレルギーなどの方はご注意ください。

楽農学校 OB 会専用 マatchingサイトのご案内

楽農学校 OB 会では農作業マatchingサイトを開設しています。

「もっと農作業をしたい！」という方、楽農学校修了生のもとでご自身の農業スキルを活かしてみませんか？

農作業マatchingサイトはこちらをご覧ください。

https://rakunouob.sakura.ne.jp/blog/?page_id=1292



また、マatchingサイトに掲載したい農家も随時募集しています。

掲載を希望される方は楽農学校 OB 会 (rakunouob@rakunouob.sakura.ne.jp) までメールでお問い合わせください。

掲載料は無料です。

〒651-2304

神戸市西区神出町小束野 30-17 楽農生活センター
楽農学校課「楽農学校 OB 会」

電話：078-965-2047

FAX：078-965-2659

MAIL：rakunouob@rakunouob.sakura.ne.jp

ホームページ：<https://rakunouob.sakura.ne.jp/blog/>

編集後記

気候も大きく変化し、従来の温度管理では対応できないほど農作物にとって厳しく、人間にとっても大変な状況が続いています。どうか負けずに立派な農作物を作ってください。

また、最近怪我をされる方も増えているようです。

くれぐれもお気をつけてください。